

令和2年11月10日
記者発表

令和2年度和歌山県文化表彰について

令和2年度和歌山県文化表彰の受賞者が決まりましたので、お知らせします。

1 受賞者（50音順・敬称略）

(1) 文化賞（文化の向上発展に特に顕著な業績を示し、和歌山県の誇りに値すると認められる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
かん ぎき りょう へい 神 崎 亮 平	63	茨城県	橋本市	生物学者

(2) 文化功労賞（文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
(故) お ぎき よし あき 尾 崎 斎 晃	享年84	—	和歌山市	版画家
こ やま よし き 小 山 譽 城	69	和歌山市	御坊市	歴史学者

(3) 文化奨励賞（すぐれた文化の創造と普及活動を続け、将来一層の活躍が期待できる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
お の え きく ゆき 尾 上 菊 透	40	東京都	和歌山市	日本舞踊家
つじ もと よし み 辻 本 好 美	32	橋本市	橋本市	尺八奏者
なか たに まさ ふみ 中 谷 政 文	37	東京都	和歌山市	ピアニスト
くま の ほやたまたいしやさいじ ほぞんかい 熊野速玉大社祭事保存会	56	新宮市	—	民俗芸能の伝承

(年齢は令和2年11月16日現在)

2 表彰式

(1) 日時 令和2年11月16日（月）14時～

(2) 場所 和歌山県庁本館4階 正庁

3 賞

表彰状、き徽章（メダル）並びに副賞をお贈りします。

4 沿革

昭和39年度より実施、本年度で57回目を迎えます。

5 来年度の候補者の推薦

令和3年4月下旬から6月末まで、候補者の推薦を受け付ける予定です。

（どなたでも推薦することができます。ただし自薦はできません。）

担当課	文化学術課
担当者	胡麻・安井
電話	073-441-2050（内線2058）

令和2年度和歌山県文化賞

神崎 亮平

住 所 茨城県つくば市
出身地 和歌山県橋本市
生 年 昭和32年

◎ 業績及び経歴

昭和32年高野口町（現橋本市）に生まれる。昭和55年筑波大学を卒業。同大学大学院博士課程生物科学研究科にて理学博士号を取得。大学院修了後、アリゾナ大学神経生物学研究所博士研究員、筑波大学教授等を経て、平成16年から東京大学教授となる。

生物学者として、バイオミメティクス(生物模倣)を探究。生物知能の再現から、現在の人工知能を超えた、より人や環境にやさしい知能の構築に関する研究を進め、動物行動学、神経科学、遺伝子工学、ロボット工学、コンピュータ科学など広範な学際的アプローチにより、世界に先駆けて生物機能利用の研究を展開。スーパーコンピュータ「京」を用いて神経細胞からカイコガの脳の神経回路モデルを精密に再現。いわゆるサイボーグ昆虫による行動検証によって生物の機能を理解する、新たな工学分野を開拓してきた。その功績は国内外より高い評価を受けており、関連学会の学会賞のほか、イタリアのミラノビッコカ大学から名誉学位が授与されている。

また、研究活動に留まらず、人材育成のためのアウトリーチ活動も積極的に行い、150回以上にのぼる実験科学教室や講演会を全国の小中高等学校や特別支援学校で実施。平成28年度からは、東京大学先端科学技術研究センターの所長として、研究所の特徴である学際性を活用し、自治体との包括連携を通して地域社会の問題解決に取り組む「地域共創リビングラボ」や、誰も取り残されることのない環境を構築する「インクルーシブデザインラボ」の所内創設など、様々な事業を優れたリーダーシップのもと推進。このような活動は海外からも注目され、各国との国際協定に結びついている。

和歌山で育まれた「生かせいのち」の世界観のもと、課題が複雑化する現代こそ、柔軟で多様性のある解決法の重要性を説き、高い精神性と倫理性による「誰も取り残さない」課題解決の実現に向けて、世界に名だたる研究功績をあげ続ける氏は、まさに本県が世界に誇るべき存在である。

■ 現 在

- 東京大学先端科学技術研究センター
教授・所長

◆ 主な表彰歴等

- 平成8年 日本比較生理生化学会吉田奨励賞
- 平成15年 第2回つくばテクノロジー・ショーケースベストインデクシング（ベストアイデア賞）
- 平成20年 日本比較生理生化学会学会賞（吉田記念公演）
- 平成23年 アリゾナ大学昆虫科学センター（Insect Science Center）
2011年 Distinguished Visiting Professor
日本ロボット学会論文賞
- 平成24年 日本神経回路学会最優秀研究賞
日本学術振興会（JSPS）ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞
- 平成27年 第2回HPCI（京）利用研究課題優秀成果賞
橋本市文化賞
- 平成28年 東京大学工学部2015年度Best Teaching Award
- 平成31年 The University of Milano-Bicocca名誉学位

令和2年度和歌山県文化功労賞

故 尾崎 齋晃(本名 尾崎 好昭)

出身地 和歌山県和歌山市

生 年 昭和10年

◎ 業績及び経歴

昭和10年和歌山市に生まれる。昭和30年和歌山市役所へ奉職。和歌山市職員として生涯学習事業に尽力し、様々な社会教育の講座を開く中で、版画家であり教師でもある長谷川富三郎氏と出会う。この出会いを一つのきっかけに、版画家としての活動を始める。

当初、和歌山での木版画講座は年賀状づくりが中心だったが、次第に大きな作品に挑戦するようになり、昭和53年に講座の参加者を中心に和歌山「板画の会」を創設。役員として会員の技術向上に務めると共に、自らの技術や美的感覚を着実に磨き上げていった。

その活躍は、一般社団法人日本板画院主催の第28回板院展への初出品初入選に始まり、第31回板院展で新人賞・ニュートン賞、第60回板院展で華厳賞、第69回板院展で東京都知事賞を受賞するなど永年にわたり、また、海外の展覧会にも積極的に出品し、多数の受賞歴を誇る。

すべての作品が白と黒だけで構成されるその作風には、白と黒だけで色を感じさせるという信念が込められている。題材は、懐かしい街並みや建物が多く、京都府美山町に残るようなかやぶき屋根の伝統的な風景のほか、和歌山市雑賀崎を描いた「雑賀崎風景」、「漁村風景」、御坊市塩屋町を描いた「浜辺」、かつらぎ町を描いた「祠のある家」など、故郷和歌山を取り上げたものも多数存在する。白と黒だけの世界でありながら、その作品に描かれた風景や建物からはあたたかみが溢れ、見る者の心に、目に映る色彩以上の、色鮮やかな故郷への思いを呼び覚ます。

失われつつある日本の懐かしい風景を、白黒の版画を通して人々の心に留めおくその表現力は、実に偉大であり、永年にわたり多くの作品を生み出したその功績は誠に多大なものであった。

令和2年2月15日逝去

◆主な表彰歴等

- | | |
|-------|---|
| 昭和56年 | 第31回板院展新人賞・ニュートン賞 |
| 平成22年 | 第60回板院展華厳賞
「アルテ・ジャポネーゼ・ポスト・モデルナ」芸術大賞(イタリア)
「日本ポルトガル修好150周年記念美術展」ポルト市長賞
工芸部門準大賞 |
| 平成23年 | インターナショナル・アーティスト・グランプリ
「2011年度美術史上に残る世界的名作遺産受賞作家」認定 |
| 平成24年 | 日本美術評論家大賞 |
| 平成26年 | エトワール芸術大賞(フランス) |
| 平成27年 | 「暁-Akatsuki～日本・トルコ修好125周年記念展～」トルコ芸術遺産大賞 |
| 平成29年 | 和歌山市文化賞 |
| 令和元年 | 第69回板院展東京都知事賞 |

令和2年度和歌山県文化功労賞

こやま よしき 小山 譽城

住 所 和歌山県和歌山市
出 身 地 和歌山県御坊市
生 年 昭和25年

◎ 業績及び経歴

昭和25年御坊市に生まれる。昭和50年國學院大學大学院修士課程を修了。同年、和歌山県立高等学校教員となる。

大学在学中より幕府から徳川御三家に付けられた家老である付家老（紀州藩の安藤家・水野家、尾張藩の成瀬家・竹腰家、水戸藩の中山家の五家）について研究を続け、その成り立ち、領内支配の実態、藩内での位置、幕府との関係などを解明し、幕藩体制下における御三家付家老の存在意義を明らかにするとともに、徳川御三家がどのようにして成立したかについても新たな視点から実証した。その成果は平成18年に研究書『徳川御三家付家老の研究』として刊行され、平成19年には國學院大學から歴史学博士の学位が授与された。平成23年には幕府と紀州藩の関係、紀州藩の支配、家臣団の動向などについて論じた研究書『徳川将軍家と紀伊徳川家』を刊行している。

研究と並行して、昭和50年から4年間、和歌山県古文書調査員として本宮・新宮・那智・高野山地域の古文書調査に従事。その後は和歌山県教育史、和歌山市史、海南市史、御坊市史、田辺市史など多くの自治体史の編纂委員等を務める。

また、高等学校社会科教員として、県内の社会科教育の充実と教員の力量と資質向上を目指して、県高等学校社会科研究協会の副会長等を6年間務め、社会科教育の発展にも尽力した。こうした活動の中で、昭和63年には県教育委員会から教育研究奨励賞、平成11年には和歌山県文化財研究会から表彰状が贈られたほか、その業績により平成26年には御坊市文化賞を受賞されている。

付家老研究という本県の歴史の紐を解き明かす分野に独自の視点から切り込み、研究成果を書籍や講演等で広く人々に伝えてきた永年の活動は、本県の歴史学において意義深く、功績は誠に多大である。

■ 現 在

- ・和歌山信愛大学非常勤講師
- ・和歌山信愛女子短期大学非常勤講師

◆ 主な表彰歴等

- 昭和63年 和歌山県教育委員会教育研究奨励賞
平成26年 御坊市文化賞

令和2年度和歌山県文化奨励賞

お のえ きく ゆき こ さか むね ひさ
尾上 菊透(本名 小坂 宗久)

住 所 東京都中央区
出 身 地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和55年

◎ 業績及び経歴

昭和55年和歌山市に生まれる。3歳から日本舞踊を始め、藤間勘操妙に師事。平成7年に尾上菊啓に師事。平成27年より上京し、尾上流四代家元三代目尾上菊之丞に師事、内弟子として修行を重ねる。

昭和58年わずか3歳にして、その年、藤間勘操妙の会「長唄 関の小万」にて初舞台を踏む。以降、尾上流公演「尾上会」「菊寿会」他、日本舞踊協会主催「日本舞踊協会公演」「新春舞踊大会」「新作公演」等に出演し、日本舞踊家として着実に経歴を重ねる。中でも、若手舞踏家の登竜門ともよばれる「新春舞踊大会」においては、平成30年から三年連続で入賞を果たしている。

尾上流は、歌舞伎の尾上宗家六代目尾上菊五郎によって創立された。五代尾上菊五郎の芸脈に、九代市川團十郎の舞踊観、さらには、宗家藤間流の舞踊が六代目尾上菊五郎の踊りとして統合されたもので、「品格・新鮮・意外性」という言葉に表現されるように、意欲的な創造性を流派の特徴としている。

流派の中でも氏の活躍は幅広く、令和元年12月に上演され大好評を博した「新作歌舞伎 風の谷のナウシカ」に出演したほか、師である尾上菊之丞が指導・監修しているNHK Eテレ「にっぽんの芸能」内の日本舞踊体操にも出演している。

また、歌舞伎公演、宝塚歌劇、ミュージカル、花柳界の舞踊の振付指導や各種演劇の所作指導を行うなど、伝統的な日本舞踊の舞台において自身の舞のみならず、分野を超えて日本舞踊による新たな表現を創造することに成功している。

日本舞踊の道を極めるべく、幼少期から研鑽を重ね、見事にその才能を開花させている姿は、今後本県の古典舞踊界を担う人材として、更なる活躍が大いに期待されている。

■ 現 在

・日本舞踊家

◆ 主な表彰歴等

平成30年 日本舞踊協会主催「新春舞踊大会」奨励賞
平成31年 日本舞踊協会主催「新春舞踊大会」大会賞
令和2年 日本舞踊協会主催「新春舞踊大会」奨励賞

令和2年度和歌山県文化奨励賞

辻本 好美

住 所 和歌山県橋本市
出身地 和歌山県橋本市
生 年 昭和62年

◎ 業績及び経歴

昭和62年に生を享け、橋本市にて育つ。尺八奏者の父、公平氏の影響で、高校時代より尺八を始める。平成17年橋本高等学校在学中に橋本市の国際親善大使としてアメリカ・ロナパーク市で演奏する。その後、尺八の道を極めるべく東京藝術大学音楽学部邦楽科に進み、平成22年卒業。

平成25年日本大使館主催チリ・アルゼンチン南米ツアー公演、平成26年中米(エルサルバドル・キューバ・パナマ)ツアー公演、スペイン国交400周年事業(マドリード日本大使館)での演奏など、国際的な舞台での演奏を次々と成功させる。平成28年には、史上初の女性尺八奏者のソロプロジェクト“Bamboo Flute Orchestra”として、和楽器×洋楽アルバム「SHAKUHACHI」でメジャーデビュー。ワールドチャート1位を獲得する。

国内においても、平成22年チリ地震チャリティーコンサート「想いを込めて」、平成23年緊急支援東日本大震災チャリティーコンサート「今 私たちにできること!」を開催。平成24年にはFIFAU-20女子ワールドカップ JAPAN2012、令和元年には天皇皇后両陛下が出席された第3回野口英世アフリカ賞授賞式及び記念晩餐会で演奏を行うなど、様々な舞台で活躍を重ねている。

また、ふるさと和歌山への想いも強く、きのくに音楽祭や橋本高等学校邦楽部全国大会出場コンサートに出演するなど、現在も和歌山県内での演奏活動を積極的に行っている。

日本の伝統楽器の素晴らしさを世界中の幅広い世代の人にもっと知ってもらいたいという想いのもと、令和2年10月末現在で世界24ヶ国・33都市で53公演を成功させるなど、尺八奏者として国内外で精力的に活動を行っており、著名な洋楽を尺八でカバーするスタイルは海外からも高い注目を浴びている。尺八の奥深い魅力と可能性を日本から世界へ発信するその活躍は、今後もより一層の期待ができる。

■ 現 在

・尺八奏者

◆ 主な表彰歴等

平成26年 橋本市文化奨励賞

令和2年度和歌山県文化奨励賞

なか たに まさ ふみ
中谷 政文

住 所 東京都板橋区
出身地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和58年

◎ 業績及び経歴

昭和58年和歌山市に生まれる。4歳からピアノを習い始め、幼くして才能を開花させる。平成6年に第48回全日本学生音楽コンクール全国大会ピアノ部門小学校の部で第1位、そして、平成9年に第51回全日本学生音楽コンクール大阪大会ピアノ部門中学校の部で第1位に輝く。平成10年に和歌山市児童・生徒文化奨励賞を受賞する。

平成14年に東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を卒業後、同大学音楽学部器楽科ピアノ専攻へ進学する。大学卒業後は、奨学生としてアメリカへ留学し、平成22年度にインディアナ大学ジェイコブズ音楽学部ピアノ専攻の修士課程を修了。その後、マイアミ大学フロスト音楽学部ピアノ演奏・教授法専攻の博士課程に進み、ティーチングアシスタントを務め、平成29年に論文「The Effect of the Developing Variation Technique on Brahms' Early Piano Solo Works in the Form of Theme and Variations (日本語訳：ブラームスの初期のピアノ変奏曲作品における発展的変奏技法の考察)」において博士号を取得し同大学を卒業する。

第8回ソフィア国際ピアノコンクール第1位、ニューオーリンズピアノインスティテュートピアノ協奏曲コンクール第1位に輝くなど、幼少期から現在まで国内外の多数のコンクールで受賞を重ねる。また、国内外のコンサートにも多数出演し、平成14年から毎年首都圏内のホールにて開催する、男性ピアニスト5人によるコンサートシリーズ「絆」は、大きな反響を呼ぶ。帰国後は、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」や「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ」などにソリストとして出演し、令和元年には故郷和歌山での「きのくに音楽祭」にも出演。

「音楽は主に旋律、リズム、和声の3要素によって成り立つが、中でも特に和声の移り変わりには、安らぎ、期待、怒り、歓喜など人間の濃密な感情が入り交じる美しさがある」と語る氏の演奏は、高度な演奏技術のみならず、迫力を持ちながらも繊細かつ豊かな表現力及び叙情性を兼ね備えた、聴衆の心に訴えかけるものであり、将来一層の活躍が期待できる。

■ 現 在

・ピアニスト

◆ 主な表彰歴等

- | | |
|-------|---|
| 平成6年 | 第48回全日本学生音楽コンクール全国大会小学校の部第1位及び野村賞 |
| 平成9年 | 第51回全日本学生音楽コンクール大阪大会ピアノ部門中学校の部第1位 |
| 平成10年 | 和歌山市児童・生徒文化奨励賞 |
| 平成18年 | 第22回マルサラ市国際ピアノコンクールファイナリストディプロマ賞(イタリア) |
| 平成20年 | 第8回ソフィア国際ピアノコンクール"アルベール・ルーセル"第1位、Y. Boukoff賞(ブルガリア) |
| 平成22年 | 第6回サンダニエル国際ピアノミーティングショパン賞(イタリア) |
| 平成24年 | 第27回ウィリアム・カペル国際ピアノコンクール Martha M. Boucher記念賞(アメリカ) |
| 平成29年 | ニューオーリンズピアノインスティテュートピアノ協奏曲コンクール第1位(アメリカ) |
| 平成30年 | 和歌山市文化奨励賞 |

令和2年度和歌山県文化奨励賞

くまのはやたまたいしやさいじほぞんかい 熊野速玉大社祭事保存会

創立 昭和39年
代表 上野 顯
所在地 和歌山県新宮市

◎ 業績及び経歴

「新宮の速玉祭(はやたまさい)・御燈(おとう)祭り」は、和歌山県新宮市に鎮座する熊野速玉大社を中心とする大規模な祭礼である。

速玉祭は、10月15日に、神霊を神馬に戴き、速玉大社や御旅所(おたびしよ)などを巡る、神馬(しんめ)の渡御(とぎょ)が行われる。翌16日には神輿の渡御と御船(みふね)祭りが行われる。「一つもの」と呼ぶ人形を載せた神馬を先頭に、神輿が町内を巡った後、神霊は朱塗り神幸用船に遷され川を遡上し、御船島へと向かう。御船島では九隻の早舟が御船島を3回廻って先着を競う。島廻りが終わると、神霊は御旅所に入り、浄闇の中で御旅所神事が厳かに行われ、還御(かんぎょ)となる。

御燈祭りは、2月6日に行われる。神倉山の山上に「上がり子」と称する参拝者が集う中、御神火が起こされ、大松明に遷される。大松明から上がり子たちの松明に火が分かたれると、やがてあたり一面は火の海となり山門から上がり子たちが一気に山を駆け下りるその様は、さながら火の滝のようで、この勇壮な祭りに参加しようと、全国から大勢の参拝者が集う。翌日は、御礼参りの日で、神倉山の麓で祈祷や、餅撒きなどが行われる。

これらの祭りは昭和39年3月に和歌山県指定無形民俗文化財となり、平成28年3月には「新宮の速玉祭・御燈祭り」の名称で国の重要無形民俗文化財に指定された。

保持団体である熊野速玉大社祭事保存会は、昭和39年に組織化され、熊野速玉大社を中核として周辺地域の氏子や関係団体と協力して長年にわたり祭礼の執行及び運営を行っている。その功績は、伝統文化の継承のみならず、熊野の世界遺産を活かした魅力発信等、地域の活性化・振興に重要な役割を果たしており、本県の伝統文化の保護および文化振興に対する貢献は誠に多大である。保存会の末永い活動が今後も期待される。

◆ 主な表彰歴等

昭和39年 和歌山県指定無形民俗文化財
平成20年 和歌山優良県産品(観光資源)
平成28年 国指定重要無形民俗文化財

【文化表彰各受賞者からの受賞に際するコメント】

《文化賞 神崎 亮平 様》

令和2年度「和歌山県文化賞」を賜り、たいへん光栄にそして誇りに思います。わたしは、紀の川の水が清く流れ、霊山高野を南に臨む高野口に育ちました。長年、大学において生物の知能を最先端の生物学、ロボット工学、コンピュータ科学を融合した学際分野から研究してきました。新しい未来には、さらにアートや宗教をも包摂した高い精神性と倫理性ある視座を持つことが大切です。故郷はそのような視座の重要性を私に教えてくれました。神仏が宿る故郷のこころ、和のこころで、多様な人々が幸せに、そして自然が豊かになる未来づくりに貢献できるよういっそう励んでいきたいと思えます。

《文化功労賞 (故) 尾崎 斎晃 様 の御子息 尾崎 勝一 様》

このたびは亡き父に和歌山県文化功労賞を賜り、誠にありがとうございます。

父は和歌山に生まれ和歌山に育ちそして和歌山でその生涯を閉じました。いろいろな国で作品を評価され大変喜んでいましたが、地元和歌山で評価されることを一番望んでいたと思えます。和歌山の文化に何らかの貢献をしたいと思っていたこと、そして白と黒のシンプルな世界でどこまで表現できるか挑戦していくこと。じつのところ息子の私は父の多くを知りませんが、この二つは強く感じ取ることが出来ました。

今回賞に推薦していただいた方々には大変感謝しています。もう直接言葉を交わすことは出来ませんが墓前にうれしい報告が出来ます。ありがとうございました。

《文化功労賞 小山 譽城 様》

この度は和歌山県文化功労賞を賜り、誠に光栄に存じております。顧みれば小学生の頃からふるさと和歌山の歴史に興味を持ち、大学に入学して以来、幕藩体制を支えた徳川御三家の付家老の実態の解明、存在意義について研究を続けてきました。さらには、紀伊徳川家と将軍家の関係についても明らかにしてまいりました。

歴史は現在と過去との対話であり、未来を洞察するために学ぶものであります。

これからも自己の研鑽を重ねつつ、自分を育ててくれたふるさと和歌山県の歴史と文化について一人でも多くの方々に関心と誇りを持っていただけるよう、また和歌山県の発展のために歴史の研究を通じて貢献できればと思っております。

《文化奨励賞 尾上 菊透 様》

この度は文化奨励賞という名誉ある賞を頂戴しありがとうございます。伝統あるこの賞は過去に受賞された先輩方のお名前を拝見するだけで身の引き締まる思いです。

私は和歌山県に生まれ「和歌山名流舞踊会」にて先輩方の芸に触れ、30歳まで生活をする中で多くの方々にお導きいただき、舞踊の道へと進むことができました。

これからはさらに精進し、地元和歌山県の文化の隆盛、日本舞踊の発展に少しでもお力添えができれば望外の喜びです。

《文化奨励賞 辻本 好美 様》

この度、和歌山県文化奨励賞を賜り、大変嬉しく思っております。

受賞出来ましたのは、ひとえに今まで支えてくれた両親、そして応援下さっている皆様のおかげでございます。心より感謝申し上げます。

私は高野山の麓の橋本市で育ちました。自然豊かな和歌山に生まれ、今の私があると思っております。これからも微力ではありますが、和歌山を愛しながら、尺八の魅力を世界中に伝えるとともに、伝統文化の継承と発展に向け一層の精進を重ねて参りたいと思っております。

《文化奨励賞 中谷 政文 様》

この度は、和歌山県文化奨励賞を賜り、心より厚く御礼申し上げます。世の中が、不要不急の活動を自粛せざるを得ない状況の中、無情にも多くの音楽を鑑賞する機会が失われてしまいました。しかしこの事態を契機に、心の豊かさをもたらしてくれる精神的な拠り所としての音楽の本来あるべき姿を改めて見つめ直すことが出来、自分自身が音楽家であることの意味、そして使命感を強く自覚することとなりました。これからもより一層クラシック音楽を通して文化の向上の発展に貢献出来るよう精進していく所存でございます。

《文化奨励賞 熊野速玉大社祭事保存会 様》

この度は栄えある和歌山県文化奨励賞を賜り、誠に有り難うございました。祭事には、その土地に暮らす人々の考え、文化、習俗といったものが集約され、いわば日本の精神文化の結晶であります。全国的に過疎化が進み、熊野でも多くの人手を要する祭事は尚更伝承が危惧される場所ですが、祭に込められた祖先たちの想いを、未来に繋ぐ日本の祈りとして後の世までも伝えて行くために、今回の受賞は大きな励みとなります。また伝統神事に携わることによって若者たちが育ってゆく姿は実に頼もしく、ここにも文化奨励の大きな意義があると存じ、今後とも会員一同一層努力してまいります。

令和2年度和歌山県文化表彰受賞者

【文化賞】



神崎 亮平

【文化功労賞】



(故) 尾崎 斎晃



小山 譽城

【文化奨励賞】



尾上 菊透



辻本 好美



中谷 政文



熊野速玉大社祭事保存会

※下記へご連絡いただければ、写真データをメール送信させていただきます。

担当 文化学術課 胡麻

Email goma_t0002@pref.wakayama.lg.jp